**佐藤　狂六 （さとう・きょうろく）**

**１、プロフィール**

川柳作家。板柳川柳社、川柳岩木吟社の結成に参画、また青森県川柳社、県川柳人連盟の発展に尽力した。

＜生没＞

1901（明治34）年３月31日 ～ 1993（平成５）年９月11日

＜代表作＞

句碑 「人はみな幸せに見え旅つづく」

＜青森との関わり＞

北津軽郡板柳町（当時板柳村）生まれ、当町に獣医として佐藤家畜診療所を開設した。

**２、作家解説**

明治34年板柳村（現板柳町）に誕生。本名親英。大正13年麻布獣医学校卒業。大正14年板柳町表町に佐藤家畜診療所を開設。大正15年頃川柳を始め、小林不浪人の指導を受ける。昭和２年板柳川柳社を結成し代表となる。昭和12年、五所川原川柳社、鶴田川柳社、板柳川柳社を合同し、川柳岩木吟社結成、初代代表となる。

昭和23年発起人の１人として青森県川柳社を結成、機関誌「ねぶた」の名付け親となる。昭和30年頃金枝万作と青森県川柳人連盟を結成し、初代代表となる。連盟として昭和33年合同川柳句集『蔓華鏡』を出版。昭和34年青森県川柳社初代代表後藤蝶五郎没後二代目代表となる。

県柳壇の草創期から活躍、マスコミ等の選者を多数務め川柳普及に貢献。特に青森県川柳社の結成に尽力した事は記憶すべきである。また、出身地の津軽西北五地方の川柳向上のため大きく尽力した。昭和58年県文化賞受賞。

平成５年９月11日死去。享年92歳。

**３、資料紹介**

〇佐藤狂六川柳句碑

句碑

1993（平成５）年９月12日

石碑180cm×100cm 台座45cm×160cm

平成５年９月、川柳岩木吟社が主体となり、板柳町有志および県内川柳人の浄財を受けて、板柳ふるさとセンタ－に句碑を建立。

　「人はみな幸せに見え旅つづく」 狂六